

ブロック別研修会で みっちり学習

第73期全国ブロック別支部長研修会を6月11日、京都市・ラポール京都でひらかれ、執行委員、支部長、事務局の24人が参加した。

はじめに、山口二郎・法政大学教授から「戦後民主主義の危機と参院選」と題して学習した。安倍首相は、憲法改正を自己の目的化にしていることをふまえ、アベノミクスは失敗であることと。参院選で投票率を上げ、野党を一人でも多く勝たせることが大切と訴えた。

つぎに、西島藤彦・中央書記長から、差別糾弾闘争、狭山再審闘争、行政闘争について、部落差別の解消に向けた法制定の状況と

う大きな役割を果たす施設であることが強く訴えられた。最後に「滋賀県における隣保館の現状と今後の課題」として、丸本千悟・滋賀県連合会書記長代行は、9市3町に34地域総合センターが設置され、地域総合センターとして、隣保館デ

イサービスを6割のセンターで実施されている。教育対策事業は保幼小中で合同会議を31センターで実施している。同和行政を衰退させないために地域総合センター事業に積極的にかかわることが重要と今後の課題がのべられた。

の菅谷さん、布川事件の桜井さん、袴田事件の袴田さんより応援のメッセージがありました。その後、芝公園までの道をデモ行進し、石川さんの無実と再審開始を訴えてきました。

翌日には、湯浅町の共闘会議としては約20年ぶりとなる現地調査をさせていただき、同行していただいた中央本部の安田さんの説明を受けながら、石川さんが自供したといわれる事件当日の足取りをたどり、当時とは大きく変わっている環境ではあるものの、時間的な矛盾や石川さんの供述では説明のつかない状況を実感するなかで、裁判の不当性・差別性を改めて痛感しました。

狭山事件の再審を求める 市民集会と現地調査に参加して

部落解放湯浅町共闘会議 議長 阪井 達夫

5月24日、25日の2日間、狭山事件市民集会と現地調査に参加しました。

24日の市民集会では、組坂繁之・中央執行委員長のあいさつをはじめに、各臨席者の皆さんより応援の

メッセージがあり、弁護団報告とつづき、連帯のアピールとしてえん罪事件をともに闘ってきた足利事件

最後、石川さんの事務所再現実況の自宅の見学をおこない、万年筆がつかれていた鴨居にも警察のつちあげに憤りを覚え、当日もひらかれるという三者会議にむけ足早に駅に向かう石川さんの背中を見送りながら、自供してしまっ



かまいの高さを確認する参加者

映画「ママリン87歳の夏」

映画「徘徊ママリン87歳の夏」を5月28日、和歌山県立図書館・アートメディアホールでひらかれ、約150人が参加した。

この映画は、藤本真利で、和歌山県平和フォーラム、部落解放同盟、県共闘会議で実行委員会をたちあげ、ひらかれた。



県下の高齢者の状況を説明する藤本議員

上映にあたり「和歌山の高齢者福祉・認知症対策の現状」として、藤本・県議会議員兼実行委員長から

講演があった。講演では「単身世帯もしくは夫婦のみの世帯」が全国25・6%であるが、県では30・1%と高い。また、介護保険料の平均は6,243円であり、全国平均の5,514円と13%高く、さらに2030年にむけて上昇することが予想され、高齢者数が他県より多く、若い世帯が少ないことがよくわかると県内の実態が説明された。



大阪市北浜に住む母親のドキュメンタリー。母は認知症、娘は自宅マンションでギャラリーを営む。昼夜の別なく徘徊する母と見守る娘の姿は、近所の誰もが知っている。徘徊モードが一息つけば、母娘一緒に居酒屋やバーにも寄る。そんな二人の生活は6年になる。「老いては勝てぬで、徘徊モードもショートになつてきました」が、不条理な生活をユーモアでしのぐ。認知症を受け入れるとは、人間とは、(チラシより掲載)

県連青年部 新役員

◆映画公式サイト
http://hai-kai.com
(2ページつづき)

◆新役員
青年部長：松井資喜(岩橋)、副部長：井端尚司(那賀)、副部長：角野加奈(杭瀬)、事務局長：久保智弘(那賀)、事務局次長：小嶋仁史(菅原)

連載 (7)

よき日のために

叩かずして開かれる時を待つものは、やがて歩まざしてはいる時を待つものだ。虫の好い男よ！永遠に冷たき門に立て。

無碍道

われわれは、ゴルゴンに呪われていたのだ。そして眼を閉じることによってのみ生きてきたのだ。われわれは、耳を塞いで鈴を盗むものを笑えなかった。しかし今どきそんなことは、はやらぬ。土竜の勝利や蝙蝠の栄光は見たくもない。われわれの見たくもないのは、永遠の昨日から亡霊のように浮き上がった今日の姿ではなく、しっかりと昨日を踏みしめて、永遠の明日へ突進する勇ましい今日の姿であるのだ。われわれはすでに、過去の穿鑿に倦きた。われらの前に無碍道がある。(次号につづく)

と勝ち取るために自分たちも全力でとりくまなければならぬ思いをあらたに帰路につきました。